

腹腔鏡手術後の合併症であるポートサイトヘルニアの臨床的特徴

1. 研究の対象

2015 年 1 月から 2022 年 8 月まで当院で腹腔鏡手術を行い、術後にポートサイトヘルニアが発生した方

2. 研究目的・方法

近年、婦人科疾患は良性疾患、悪性疾患ともに腹腔鏡下手術やロボット支援下手術が行われる頻度が増加しています。腹腔鏡手術やロボット支援下手術は開腹手術と比較し低侵襲であり、出血量の低下、在院日数の短縮のメリットがあります。しかし、まれではありますが手術操作を行うために用いられるポート跡に腸管が嵌頓するポートサイトヘルニアが発生することがあります。ポートサイトヘルニアを起こした場合は腸管切除が必要となる重篤な合併症が発生しうるため早期発見が望ましいと考えられています。本研究ではポートサイトヘルニアの早期発見に向け、臨床的特徴を後方視的に解析することを目的とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、手術の内容、手術の動画、術前・術後に行った画像検査の画像、病理検体の写真

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

研究責任者

大阪国際がんセンター 婦人科 松崎 慎哉

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：婦人科 松崎 慎哉